



資料 1

平成29年度 第1回 北九州市地域バイオマス有効活用検討会

これまでの取り組み

Copyright ©2016 Environmental Technology Service Co., Ltd. All rights reserved.

供給可能量の調査・検討



木質燃料材の供給可能量

平成27年度検討会における
木質バイオマス利用可能量(推定)

低質材(C・D材)	10,400 ^t
竹	10,000 ^t
木くず・廃木等	13,750 ^t
合計	約 30,000 ^t

平成28年度検討会における
木質燃料材の供給見込量
(希望的数値を含む)合計 約 6,000^t

❖ 下記のような施策等の推進を図り、体制構築することが前提

- ☞ 林地残材の利用促進
→ 伐り捨て間伐(保育間伐)から搬出間伐(収入間伐)へ
- ☞ 主伐の推進



・6,000^t/年という数値は、あくまで希望的数値であるため、現実的に北九州市において、安定的な地域未利用材の供給を可能とするためには、短期間での対応は難しく、中・長期的な期間(準備)を要する。

・3年後の事業化を目標とした小規模木質バイオマス発電(熱電併給)の地域導入については、上記のように北九州地域における低質材(未利用分)の安定供給に関して更なる検討や体制構築が必要と考えられる。そのため、FIT活用を前提とし地域低質材を主な発電燃料とする設備の事業化は、現状では検討のテーブルに乗りづらい。

Copyright ©2016 Environmental Technology Service Co., Ltd. All rights reserved.

2018/8/14

Page2

関係者のWIN-WIN策の検討-1



未利用となっている低質材の現状について

- ❖ 全国的に見て九州地域は、低質材の価格が高い傾向にある。
- ❖ さらに北九州市域では、現時点で良材を含めた木材搬出は少ない状況にあるため、林業活動の活性化や計画的な森林施業が伴わないと、未利用となっている低質材（燃料材）の安定的・継続的な供給は難しい。
- ❖ 供給側と需要側の折り合いがつきづらい。（ギャップがある）
- ❖ 本検討会における木質燃料材の供給見込量（希望的数値）は市域外も含め約6,000トンの供給を見込めるかもしれないという試算結果に関しては、すぐに事業化検討を断念する形にはなりづらい（あきらめるにしては惜しい）。

第2回検討会以降のヒアリングでの主な意見

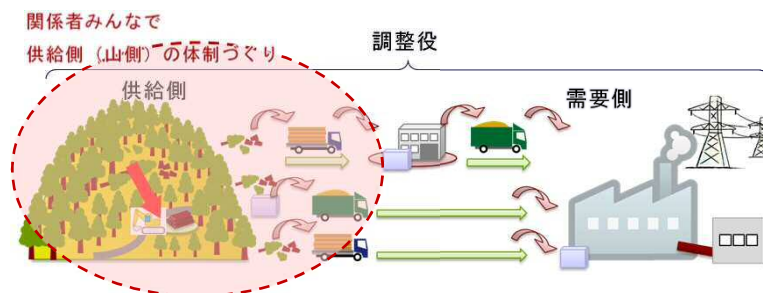
- ❖ 燃料材の供給量が確定していないと、発電事業等の事業化を検討することは難しい。
- ❖ しかし、希望的数値ではあるものの北九州市近郊から約6,000トンの供給が見込めるかもしれないという試算結果に関しては、すぐに事業化検討を断念する形にはなりづらい（あきらめるにしては惜しい）。
- ❖ F I T 制度の活用を想定した場合は、制度内容の変更等も考えられるので、早期の体制整備が望まれる。
- ❖ 材の供給状況に応じて、他の活用方策や方法、活用先などを検討することはできる。

関係者のWIN-WIN策の検討-2



方向性

- ❖ 北九州市域において、万トンのオーダーに対応できる地域未利用材の供給は難しい状況にあるが、材の供給状況に応じて活用方策や活用先などを検討する余地はあるため、林地残材となっている未利用材の活用を図っていくことが望まれる。
 - ☞ 今回の検討（燃料用木質バイオマス供給）をキッカゲに、森林の適切な保全を図っていくという観点も踏まえ、北九州市域における林業活動の活性化を関係者で検討していく。（山側の活動の深掘りを検討していく）
 - ☞ 木質バイオマス燃料（C・D材）供給を持続的、安定的に拡大するためには、価格の高い良材（A・B材）とともに結合生産していく必要がある。
 - ☞ 「林業活動が盛んな地域ではない」→「林業活動（事業）が成り立つ地域」を目指す。



まとめ及び今後の方向性について



平成28年度北九州市バイオマス有効活用検討会 要点まとめ

- 北九州市域における木質燃料材の供給見込量として、6,000トン/年という数値が算出されたが、安定的な地域未利用材の供給を可能とするためには、中・長期的な期間（準備）を要する。
- アンケート調査から北九州市域の熱需要については、各事業者の熱利用は把握できたが、新たな供給先からの熱利用の可能性を把握することは難しい結果となった。→同様な方法で具体的な熱需要を把握するためには、提示する情報量を増やす必要がある。
- 北九州市近郊から約6,000トン/年の供給が見込めるかもしれないという試算結果に関しては、すぐに事業化検討を断念する形にはなりづらい。→（他の方策を含め、検討の余地がある。）

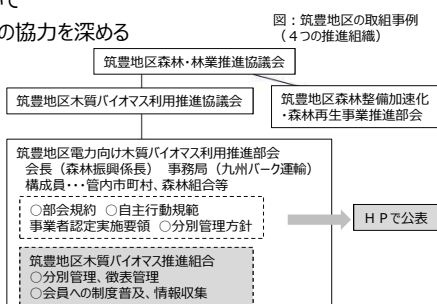
北九州市の未利用木質バイオマス有効活用の今後

- 北九州市地域でのバイオマス供給体制構築について

- ❖ 林地残材の有効利用を目指して、近隣地域との協力を深める
- ❖ バイオマス供給に関する先行事例を参考に、地域未利用材の供給体制を検討していく。

【参考】筑豊地区の取組事例

- ☞ F I T 制度の活用を図るための組織作り
- 【4つの推進組織】
- ⇒ 筑豊地区森林・林業推進協議会
- ⇒ 筑豊地区木質バイオマス利用推進協議会
- ⇒ 筑豊地区電力向け木質バイオマス利用推進部会
- ⇒ 筑豊地区木質バイオマス推進組合



Copyright ©2016 Environmental Technology Service Co., Ltd. All rights reserved.

2018/8/14

Page5

平成29年度地域バイオマス有効活用策検討業務



<目的>

北九州市及び近隣地域（以下、「北九州市域」という）における**バイオマス供給体制の構築**を目的に、**未利用材を継続的に安定供給するための体制モデル**を構築するための調査、検討を行い有効な**実施手法**、具体的な**行動計画**の策定を行う。

<実施項目>

- ① 北九州市の現状整理と先進地事例の調査
- ② 基本データに関する調査
- ③ 地域バイオマス検討会の運営
- ④ バイオマス供給体制構築に係る実施計画および行動計画の作成

Copyright ©2016 Environmental Technology Service Co., Ltd. All rights reserved.

2018/8/14

Page6